

第4学年図画工作科学学習指導案

日 時 平成24年10月9日(火) 5校時
場 所 久慈市立平山小学校 4年教室
児 童 男4名 女9名 計13名
指導者 村 田 慶

1 題材名「コロコロガーレ」(A 表現 (2) 工作に表す)

2 題材について

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の中学年の目標(2)「材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。」を主なねらいとし、指導内容A表現(2)イ「表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。」及びウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。」を主な内容として設定した題材である。

本題材では、土台となる紙に各部品を垂直に接着する線接着や、組み合わせの方法によって強度をもつ紙の性質を十分に理解し、仕組みに合った扱いをすることが求められる。また、仕組みを試しながら新たに発想したり、自分の好きな色で装飾したりしながら、自分なりの表現を楽しむことができる。作品づくりを楽しみながら、グループで仕組みや形、色のよさを交流するなどの手立てを通して発想や構想の能力を高めるのにふさわしい題材であると考えられる。

(2) 児童について

本学級は、図画工作の学習に意欲的な児童が多く、造形遊びにも絵に表すことにも進んで取り組む姿が見られる。これまでに児童は、「切って切って木の世界」では、のこぎりの扱いに慣れ、木や板を切ることができるいろいろな長さや形から表したいものを思い付き、つなぎ方を工夫して表すことを題材にして、工作に表す学習をしてきた。その結果、のこぎりの使い方を学び、切った様々な長さや形の木のつなぎ方を工夫して、つくれそうなものを発想したり構想したりする力が付いてきている。しかし、自分の表したいものがなかなか決められなかったり、作りたいたものが決まっても手先が不器用なため、のこぎりやはさみなどの道具を使ったりする際に個別に支援を要する児童もいる。

本題材での学習を通して、友達の表現方法や発想のよさを交流しながら自分の表現に生かそうとする姿勢や、正しい接着の仕方などの技能を身に付け、よりよい作品をつくらうとする態度の育成を目指す。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、次の点に留意していきたい。

第1次では、ビー玉を転がす遊びを通して、ビー玉が楽しく転がるためにはどんなコースがあったらいいかを発想させ、ビー玉が転がる楽しい仕組みづくりに興味をもたせる。その際カーブやでこぼこ道、落とし穴などがある簡単な作例を紹介し、ビー玉を使った迷路づくりという題材のゴールを設定する。

第2次では、作例や一人一人の発想をもとに楽しくビー玉が転がる仕組みと、全体の構造を簡単に考えさせ、アイディアスケッチを作成する。その際、どんな材料が必要かも考えさせ、記入させる。その後、土台に対して紙などを垂直に接着する方法を指導し、できるようにする。そして、構想したことをもとに作品づくりに取り組む。

また、作成途中で友達の作品と交換して遊ぶ時間を設けることで、転がる仕組みの工夫や形や色のよさに気付かせ、自分の作品づくりに生かすことによって、発想や構想を広げたり深めたりさせる。

第3次では、作品を交換して遊び、お互いの転がる仕組みや形や色などのよさについて気付けるようにする。鑑賞のポイントとして、仕組みや迷路の形、色、どんなイメージでつくったかを提示し、そのよさを交流することができるようにする。

3 題材の目標

ビー玉を転がして遊ぶ楽しい仕組みを紙でつくることを考え、形や色、強度などを工夫してつくる。

4 準備

教師：段ボール紙、片面段ボール紙、厚紙、ビー玉、身辺材、ワークシート

児童：はさみ、木工用接着剤

5 指導計画（全6時間）

次	時数	学習活動	評価規準【評価方法】			
			造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉転がし遊びを通して、楽しい仕組みをつくることに興味をもち、活動を見通す。 ・どんな仕組みにするか、大体のイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉転がし遊びを楽しむなど、ビー玉を転がして遊ぶ仕組みに興味をもち、楽しい仕組みをつくることに取り組もうとしている。 <p>【観察・対話】</p>			
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・大体のデザインや材料を構想する。 ・土台に、紙などを垂直に接着する方法を試す。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉が転がるいろいろな仕組みやデザインを思い付いている。 <p>【観察・対話・アイディアスケッチ】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土台に、紙などを垂直に接着する方法を理解し、材料の扱い方を工夫している。 <p>【観察・作品】</p>	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・構想したことをもとにつくる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉が転がる仕組みのイメージに合わせて、材料の扱い方を工夫している。 <p>【観察・対話・作品】</p>	
	4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品で遊びを試しながら構想を広げる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達との交流を通して見つけた、友達の作品の転がる仕組みや迷路の形、色のよさを、自分の作品に取り入れようと考えている。 <p>【観察・対話・作品・ワークシート】</p>		
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・構想したことをもとに作品を仕上げます。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉が転がる仕組みや形、色のイメージに合わせて、材料の扱い方を工夫している。 <p>【観察・対話・作品】</p>	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と作品を交換し合って楽しく遊び、よさを認め合う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・互いのアイディアのよさや作り方の工夫に気付いている。 <p>【観察・対話・ワークシート】</p>
3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と作品を交換し合って楽しく遊び、よさを認め合う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・互いのアイディアのよさや作り方の工夫に気付いている。 <p>【観察・対話・ワークシート】</p>

6 本時の指導

(1) 目標

- ・友達の作品で遊びを試しながら構想を広げ、作品をよりよくすることができる。

(2) 本時の評価規準

友達との交流を通して見つけた、友達の作品の転がる仕組みや迷路の形、色のよさを、自分の作品に取り入れようと考えている。【発想や構想の能力】（観察・対話・作品・ワークシート）

(3) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◆評価
導入 3分	1 前時までの学習を想起し、本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">迷路の仕組みや形、色のよさを見つけて、自分の作品に生かそう。</div>	・前時に引き続き、様々な転がる仕組みを試しながら、迷路をつくっていくことを確認する。 ・活動に見通しがもてるように、活動の手順を板書に位置付ける。
展開 35分	2 学習課題を解決する。 (1) グループ内の友達の作品で遊び、よさを交流する。 (2) 友達の作品と、アイデアスケッチをもとに迷路をつくる。 (3) 片づけをする。	・交流の観点として、「どんな楽しい転がる仕組みを考えているか」「形や色でいいなと思ったところはどこか」の2つを与え、ビー玉が転がる仕組みの工夫や形、色のデザインのよさに気づくことができるようにする。 ・気付いたよさを付箋に書かせ、作品づくりに生かせるようにする。 ・付箋に何も書けない児童に対して、友達の作品でおもしろかった仕組みや形、色のよさは何かを対話を通して気付かせ、書くことができるようにする。 ◆友達との交流を通して、友達の転がる仕組みや迷路の形や色のデザインのよさを取り入れて、自分の作品をよりよくしようと考えている。 【観察・対話・作品・ワークシート】 ・それぞれの材料置き場にしっかり戻すよう声かけをする。
終末 7分	3 学習のまとめをする。 (1) 振り返りを書く。 (2) 振り返りを交流する。 4 次時の学習内容を知る。	・本時の学習を振り返り、できたことや友達のよさをワークシートに記入する。 ・友達の考えを取り入れたことや、交流を通して新たな発想が生まれたことを書いている児童を紹介し、本時の学習を価値付ける。 ・次時では、作品を完成させることを知らせる。